

中期3か年計画（令和4年度～令和6年度）フレームワーク

基本情勢・課題

1. 新型コロナウイルスや食料需給

- (1) 社会・経済への影響および生活や働き方の変化
 - ①非接触・非対面での販売方法（EC取引等）の需要増加
 - ②「新しい生活様式」やデジタル化への対応
- (2) 国際貿易協定の進展による国内農畜産物への影響懸念
 - ①食の安定供給へのリスク顕在化による安心・安全な食料供給への関心の高まり
 - ②TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定、日英EPA、RCEP発効など貿易自由化の進展

2. 人口減少と高齢化

- (1) 高齢人口の増加と生産年齢人口の減少および総人口の減少
- (2) 少子高齢化にともなう消費減退
- (3) 鹿児島県における人口減少や高齢化の進展および地域コミュニティの衰退
- (4) 過疎集落におけるライフラインの確保

3. 農業生産を取巻く環境

- (1) 農村部の人口減少・高齢化による基幹的農業従事者数の減少
- (2) スマート農業への取り組みによる農作業省力化への期待
- (3) 外国人人材の活用や農福連携などによる労働力支援
- (4) サツマイモ基腐病やミカンコミバエなど病害虫への対応
- (5) 鳥インフルエンザや国内で発生しているCSF（豚熱）への予防措置
- (6) 記録的豪雨や高温、台風などの自然災害への備えと速やかな被災対策
- (7) トラックドライバー不足や法規制への対応による物流体制の維持
- (8) 「食料・農業・農村基本計画」における中小・家族経営体など多様な経営体の活躍促進や地域政策などへの支援強化
- (9) 「みどりの食料システム戦略」を踏まえた環境調和型農業の推進

4. JAグループ鹿児島を取巻く状況

- (1) 人口減少や生産基盤の弱体化による事業環境の変化
- (2) 時代・環境変化への対応と生産者・消費者目線での取り組み
- (3) 経済事業の収益力強化・収支改善
- (4) JAグループ鹿児島一体となった「財務・経営基準」「県域事業方針」の実践
- (5) 継続した自己改革を実践するためのサイクル構築

5. 社会的な課題への対応

- (1) 政府によるグリーン社会（カーボンニュートラル）の実現に向けた宣言
- (2) SDGs（持続可能な開発目標）の世界的な広がり

私たちの目標

1. 農業者の所得増大
2. 農業生産の拡大
3. 地域の活性化

私たちの目指す姿

1. 持続可能な農業への変革と多様な経営体による生産基盤の維持・強化

2. 多様化するライフスタイルに寄り添った商品の提案と消費者が真に求める価値（ブランド）の創造

3. 人生100年時代、地域生活者が安心して暮らせる新たな仕組みづくり

4. たゆまぬ自己改革への取り組みと成長する“人財”の育成

私たちの使命 ～農業、消費者、地域のために～

私たちは、組合員・JAと共に持続可能な農業の実現に向け、新しい発想と情熱により「未来へ続く農業への変革」と「豊かな地域の創造」に挑戦し、食と農を通じて生産者と消費者に満足（幸せ）と笑顔を届け、「農業」と「暮らし」の未来に向けて成長し続けます。

生産者の満足に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○生産者の所得増大に向けた総合営農支援事業の構築 ○JA・生産者と一体となった新たな事業の創出やデジタル技術の普及推進 ○所得増大、生産拡大、コスト削減、労力軽減に向けた取組強化 ○家畜疾病、病害虫などのリスクを見据えた農業生産の安定化 ○安定供給に向けた効率的な輸送対策による物流体制の整備
消費者の満足に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○マーケットニーズを踏まえた顧客の求める新たな価値の創出 ○農畜産物の持つ価値（品質・サービス・価格）を引き出し、消費者の期待に応える新たなブランドの構築 ○地産地消の取組強化や安心・安全な鹿児島の食の提供
地域生活者の満足に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○JAや地域における多様な団体との連携による地域社会の暮らし支援 ○中山間地域のライフライン対策などによる安心して暮らせる地域社会づくり
JAグループ鹿児島の新たな道筋	<ul style="list-style-type: none"> ○JA・県連が一体となった事業展開と自己改革の継続実践 ○JAグループ鹿児島の未来を支える“人財”の育成 ○魅力発信によるJAグループ鹿児島のファンづくり ○未来の地球環境を見据えた事業の構築とSDGsへの取り組み